

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
木下寿恵			
添付ファイル			

テーマ	障がい者の実態とそれを支える福祉的支援の理念、歴史、制度、実際を学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、日本における障がい者の実態(p.2～3)</p> <p>第2回 わが国の法律における「障がい」「障がい者」の定義(p.4～13、p.40～51、p.196～197)</p> <p>第3回 「ノーマライゼーション」という考え方と「リハビリテーション」①（ノーマライゼーション）(p.16～17)</p> <p>第4回 「ノーマライゼーション」という考え方と「リハビリテーション」②（リハビリテーション）</p> <p>第5回 「自立(自律)」の概念①（「自立」と「自律」の違い） 地域において自立生活をしている障がい者への支援の経験を踏まえて、自立(自律)とはどのようなことなのかを解説します</p> <p>第6回 「自立(自律)」の概念②（「自立(自律)」とは何か） 地域において自立生活をしている障がい者への支援の経験を踏まえて、自立(自律)とはどのようなことなのかを解説します</p> <p>第7回 「自立(自律)」の概念③（地域における自立生活の実際）</p> <p>第8回 「ICF(国際生活機能分類)」における「障がい」の捉え方(p.18～19)</p> <p>第9回 障がい者福祉施策の変遷①（第二次世界大戦後）(p.14～15)</p> <p>第10回 障がい者福祉施策の変遷②（高度経済成長期以降）</p> <p>第11回 「障がい者の権利に関する条約」(p.24～25)</p> <p>第12回 障がい者福祉の関連施策①（改正バリアフリー法、特別支援教育）(p.198～199)</p> <p>第13回 障がい者福祉の関連施策②（障害年金、障害者雇用）(p.58～59、p.178～183)</p> <p>第14回 障がいを持っている人たちの現状①（高次脳機能障がい） 障害者支援施設などでの経験を踏まえて、障がいを持っている人たちが体験している大変さの実態について解説します</p> <p>第15回 障がいを持っている人たちの現状②（筋萎縮性側索硬化症〔ALS〕）(p.62～63) 障害者支援施設などでの経験を踏まえて、障がいを持っている人たちが体験している大変さの実態について解説します</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】障がいを持っている人たちが社会の中でどのように扱われてきたかを学び、体験してきた大変さの実態を学ぶ。また、障がいを持っている人たちにに関する人権思想や制度、援助の実際を学ぶ</p> <p>【授業の到達目標】障がいを持っている人たちの実態を理解し、障害者福祉に関する基礎的な知識を習得することができる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部・子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「実践的に課題を発見する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」を身につけることができる</p>
テキスト	<p>テキスト名：『図解でわかる 障害福祉サービス』 ISBN:978-4-8058-8712-7 出版社名：中央法規出版 著者名：二本柳 寛 価格(税抜):2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィード	<p>【成績評価の基準・方法】学期末試験：レポート=80：20</p> <p>【課題に対するフィードバック方法】学期末試験やレポートに関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う</p>

バック方法	
質問・相談の受付方法	オフィスアワー(後日掲示)を積極的に活用してほしい。 レスポンスカードを配布した授業においては、そちらに積極的に記入してほしい。
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員(介護主任など)として6年6ヵ月介護に従事していました。日常生活を支援する中での障がい者とその家族の思いや状況などを、授業の中でお伝えしていきたいと考えています。「『障がい』とは何か」ということについて考え、障がいを持っている人たちが切り拓いてきた歴史を知ることによって、いままで見慣れた景色が違ったものに見えてくると思います
準備学習について	【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと(2時間) 【事後学習】 授業内で配布した資料やテキストの該当ページを復習しておくこと(2時間)

講義科目名称： キャリア支援Ⅲ－A/キャリア支援Ⅳ－A  
(2018以前入学生)

授業コード： 14760

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	選択
担当教員			
中村仁美			
添付ファイル			

テーマ	就職活動を通して、自己理解を深めるとともに、社会人としての能力と成長させ、自立的に決断、行動できるようにする。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 就職活動対策①（応募書類の仕上げ）</p> <p>第3回 就職活動対策②（応募書類の仕上げ）</p> <p>第4回 就職活動対策③（小論文対策）</p> <p>第5回 就職活動対策④（面接試験対策）</p> <p>第6回 就職活動対策⑤（採用担当による面接体験（個人編））</p> <p>第7回 就職活動対策⑥（採用担当による面接体験（集団編））</p> <p>第8回 内定者報告会</p> <p>第9回 社会人マナー実習①</p> <p>第10回 社会人マナー実習②</p> <p>第11回 社会人マナー実習③</p> <p>第12回 オンライン説明会①</p> <p>第13回 オンライン説明会②</p> <p>第14回 オンライン説明会③</p> <p>第15回 前期 振り返り</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 応募書類の作成、採用試験の対策、社会人マナーの学びにより、採用したいと思わせるための自身の表現方法を学ぶ。オンライン説明会を通じて、求められる人物像を具体化させる。</p> <p>【到達目標】 応募書類の作成、模擬試験の受けることにより、さらなる就職活動の実践力を身につける。マナー実習により社会人基礎力を高めていく。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、学位授与の方針のうち「福祉力」の構成要素である、「主体的に学習する力」、「地域を視野に貢献する姿勢」及び「学士力」の構成要素の一つである、「市民としての社会的責任」、「生涯学習力」を身につけることができる。</p>
テキスト	基本的には使用しない。適宜、プリントを配布する。
参考文献	適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	評価方法：学期末試験（50％）、授業のレポート課題（30％）、授業での積極性（20％）を基本に評価する。提出レポートのフィードバックは授業内で行う。
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前後に教室で受け付けます。</li> <li>・講義日以外はキャリア支援課で受け付け。講師にメールで連絡、後日回答します。</li> <li>・別途、就職面談時間を設けます。</li> </ul>

履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内でビジネスマナーに反した行動（遅刻、途中退出、私語など）は慎んでください。</li> <li>・授業内で指示した課題は必ず提出してください。また、講義中の指示をしっかりと聞いて対応して下さい。</li> <li>・欠席した場合はキャリア支援課で前回資料を受け取ってください。</li> <li>・大学や専門学校でのキャリアカウンセリングや民間企業での人材コンサルティングの経験があるキャリアコンサルタント（国家資格）の講師が、実際の就職活動や採用現場の視点から授業を行います。</li> </ul>
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後に次回の予習内容を指示します。</li> <li>・オンライン説明会参加企業について調べてください。</li> <li>・学外のセミナー、講演会、研究会、説明会等にも積極的に参加して下さい。</li> </ul>

講義科目名称： キャリア支援Ⅱ－B/キャリア支援Ⅲ－B  
(2018以前入学生)

授業コード： 14731 14732 14733 14751  
14752 14755

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	1	必修
担当教員			
中村仁美			
添付ファイル			

テーマ	就職活動の現実的な手法を学びながら、社会全体の変化を捉えた上で自分自身がどのように行動していくのかを具体的に考え実践する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 内定者報告会（4年生の体験談パネルディスカッションと座談会）</p> <p>第3回 面接の種類（集団）</p> <p>第4回 面接の種類（個人・Web）</p> <p>第5回 面接の種類（グループディスカッション）</p> <p>第6回 求人票の見方</p> <p>第7回 希望業界・希望職種について考える</p> <p>第8回 企業研究の進め方</p> <p>第9回 「学内企業施設合同研究セミナー」の参加準備</p> <p>第10回 「学内企業施設合同研究セミナー」の開催</p> <p>第11回 「学内企業施設合同研究セミナー」の振り返り・求職票の作成</p> <p>第12回 エントリーシート攻略テストの準備</p> <p>第13回 エントリーシート攻略テストの実践</p> <p>第14回 履歴書の作成</p> <p>第15回 就職活動の諸注意</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 キャリア形成科目の最終段階として社会的・職業的自立にむけた「実践力を高める」ことを目指す。変化の激しい社会の中で自立したキャリア形成に必要な実践力を「就職活動の実践」を通して学習する。</p> <p>【到達目標】 社会から求められる人材について自己の考えを言語化し、大学での学修経験と関連付けることができる。自分が目指す将来の「あるべき姿」を実現するために必要となる就職活動の実践力とキャリアプランニングスキルを身に付ける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通して、学位授与の方針のうち「福祉力」の構成要素である、「主体的に学習する力」、「地域を視野に貢献する姿勢」及び「学士力」の構成要素の一つである、「市民としての社会的責任」、「生涯学習力」を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：MY CAREER NOTE Ⅲ</p> <p>出版社：ベネッセ i-キャリア</p>
参考文献	適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>評価方法：学期末試験（50%）、授業のレポート課題（30%）、授業での積極性（20%）を基本に評価する。提出レポートのフィードバックは授業内で行う。</p>

質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前後に教室で受付けます。</li> <li>・講義日以外はキャリア支援課で受付け。講師にメールで連絡、後日回答します。</li> <li>・別途、就職面談時間を設けます。</li> </ul>
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内でビジネスマナーに反した行動（遅刻、途中退出、私語など）は慎んでください。</li> <li>・授業内で指示した課題は必ず提出してください。また、講義中の指示をしっかりと聞いて対応して下さい。</li> <li>・欠席した場合はキャリア支援課で前回資料を受け取ってください。</li> <li>・大学や専門学校でのキャリアカウンセリングや民間企業での人材コンサルティングの経験があるキャリアコンサルタント（国家資格）の講師が、実際の就職活動や採用現場の視点から授業を行います。</li> </ul>
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後に次回の予習内容を指示します。</li> <li>・授業内で終了しなかったワークシートは必ず完成させて下さい。適宜コピーを提出していただきます。</li> <li>・学内企業施設合同研究セミナー参加企業について調べてください。</li> <li>・学外のセミナー、講演会、研究会、説明会等にも積極的に参加して下さい。</li> </ul>

講義科目名称： キャリア支援Ⅲ－B/キャリア支援Ⅳ－A  
(2018以前入学生)

授業コード： 14770

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	1	選択
担当教員			
中村			
添付ファイル			

テーマ	時事に触れながら社会の変化を捉え、グループで働くことについて理解を深めていき、ひとりの職業人としての意識を高める。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 新聞の読み方講座</p> <p>第3回 新聞記事の時事問題ディスカッション</p> <p>第4回 社会人基礎力・マナー講座</p> <p>第5回 働くワークルール</p> <p>第6回 給与明細の見方</p> <p>第7回 社会人になる心構え</p> <p>第8回 社会人の講話</p> <p>第9回 チームビルディングとは</p> <p>第10回 チームビルディング①（企業からの課題提示）</p> <p>第11回 チームビルディング②（グループワーク）</p> <p>第12回 チームビルディング③（グループワーク）</p> <p>第13回 チームビルディング④（プレゼンテーションリハーサル）</p> <p>第14回 チームビルディング⑤（発表および企業からの総評）</p> <p>第15回 社会人としての自分を考える</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 実際に働くことを想定して、社会の変化がどのように組織に影響するか考える。チームビルディング実習を通して、組織の中で、どのように働いていくのかを考えながら、協働することの意義を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 時事問題へのアプローチを通して、社会への関心をより仕向け、考える力、自身の意見をまとめ、第三者に伝える力を養成する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通して、社会福祉学部・子ども学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力、課題を解決へと導く力及び「学士力」の構成要素の一つである、多文化・異文化に関する知識の理解、情報リテラシー、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	使用しない。適宜、プリントを配布する。また、新聞等も活用する。
参考文献	必要ならば講義の中で紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	評価方法：学期末試験（50％）、授業のレポート課題（30％）、授業での積極性（20％）を基本に評価する。提出レポートのフィードバックは授業内で行う。
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前後に教室で受付けます。</li> <li>・講義日以外はキャリア支援課で受付け。講師にメールで連絡、後日回答します。</li> <li>・別途、就職面談時間を設けます。</li> </ul>

履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内でビジネスマナーに反した行動（遅刻、途中退出、私語など）は慎んでください。</li> <li>・授業内で指示した課題は必ず提出してください。また、講義中の指示をしっかりと聞いて対応して下さい。</li> <li>・欠席した場合はキャリア支援課で前回資料を受け取ってください。</li> <li>・大学や専門学校でのキャリアカウンセリングや民間企業での人材コンサルティングの経験があるキャリアコンサルタント（国家資格）の講師が、実際の就職活動や採用現場の視点から授業を行います。</li> </ul>
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後に次回の予習内容を指示します。</li> <li>・チームビルディングでは、グループワークの準備、プレゼンテーションの練習に努めてください。</li> </ul>



講義科目名称： 医学概論（人体の構造と機能及び疾病）/人体の構造と機能及び疾病（2021以前入学生） 授業コード： 30301 31311

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
本多祥子			
添付ファイル			

テーマ	人を対象とする専門職に必要な基礎的な医学知識を身につける。
授業計画	<p>第1回 ライフステージにおける心身の変化と健康課題 心身の加齢と老化、ライフステージ別の健康課題</p> <p>第2回 健康及び疾病の捉え方 健康の概念、疾病の概念、国際生活機能分類（ICF）</p> <p>第3回 身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）① 筋・骨格系の構造と機能</p> <p>第4回 身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）② 血液・造血系、循環器の構造と機能</p> <p>第5回 身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）③ 泌尿器系、呼吸器系の構造と機能</p> <p>第6回 身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）④ 消化器系の構造と機能</p> <p>第7回 身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）⑤ 神経系、内分泌系の構造と機能</p> <p>第8回 身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）⑥ 皮膚、筋骨格系、生殖器系の構造と機能</p> <p>第9回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程① 疾病の発症原因、病変の成立機序 生活習慣病、悪性腫瘍、脳血管疾患 ※看護師や介護支援専門員としての経験をもとに、具体的な症例を紹介しながら解説します。</p> <p>第10回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程② 心疾患、高血圧、糖尿病・内分泌疾患 ※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、具体的な症例を紹介しながら解説します。</p> <p>第11回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程③ 呼吸器疾患、消化器疾患 ※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、具体的な症例を紹介しながら説明します。</p> <p>第12回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程④ 血液疾患、腎臓疾患、泌尿器系疾患 ※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、具体的な症例を紹介しながら説明します。</p> <p>第13回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程⑤ 骨関節疾患、目・耳の疾患、感染症 ※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、具体的な症例を紹介しながら説明します。</p> <p>第14回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程⑥ 神経疾患と難病、先天性疾患、その他高齢者に多い疾患 ※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、具体的な症例を紹介しながら説明します。</p> <p>第15回 障害の概要、リハビリテーションの概要と範囲、公衆衛生</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・公認心理師の受験資格を取得するための指定科目であるため、それぞれの専門性に必要となる基礎的な医学知識について概論的に講義します。単調な知識の列挙にとどまらないよう図や表、視聴覚教材、事例などを交えながら展開します。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について列挙することができる。</p> <p>②健康・疾病の捉え方について述べるができる。</p> <p>③人の身体構造と心身機能について説明できる。</p> <p>④疾病と障害の成り立ち及び回復過程について説明できる。</p> <p>⑤公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を列挙できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題</p>

	解決力を身につけることができる。
テキスト	テキスト名：最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座1 医学概論 ISBN：978-4-8058-8231-3 出版社：中央法規 著者名：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 価格（税抜）：2,500円
参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末試験：授業での積極性=70：30</li> <li>・学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	教室、オフィスアワー等で適宜受けつける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	社会福祉に従事する人にとって、医療の基礎的な知識を持つことは人を支える上で欠かせないものです。実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解することは、医療職等との連携においても重要です。利用者の医療と一緒に考えることができるように心がけて学んでください。看護師や介護支援専門員として病院（集中治療室、外科、内科）や介護保険事業所等に従事した経験を活かし、事例やエピソード等も交えながらわかりやすく説明したいと思います。
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の後には必ず内容を見直し、1時間以上復習を行ってください。次回の授業でポイントを確認するので、答えられるようにしておいてください。</li> <li>・次回の授業内容を、前日までに1時間以上予習しておきましょう。</li> </ul>

講義科目名称： ソーシャルワークの理論と方法（社会）A/相談援助の 授業コード： 30620  
理論と方法C（2020以前入学生）

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
山本雅章			
添付ファイル			

テーマ	ソーシャルワーク実習・演習科目に連動した「実践能力」を身につけるための理論と方法を学ぶ	
授業計画	第1回	ガイダンス／総合的かつ包括的な支援の考え方 ・授業の概要と進め方について話します ・多様化・複雑化した生活課題への対応とそのプロセス，スキル以上の点について，総合的かつ包括的な支援について学びます
	第2回	総合的かつ包括的な支援の考え方，地域社会の課題と対応 ・今日的な地域社会における課題と対応 ・分野や領域を横断する支援 多様化・複雑化した生活課題への分野領域を超えた横断的な対応とそのプロセス，スキルについて学びます
	第3回	家族支援の実際 ・家族や家族が抱える複合的な課題 ・家族に関する支援の基本理論や目的，方法，留意点 以上の点について，実際の支援の場面から学びます。
	第4回	家族理解のためのツールと実際 ・家族理解のためのツールと支援の実際，大切なことを考えます。
	第5回	地域支援の実際 ・地域支援とは何か ・地域支援に必要なスキルや価値 実際の事例に基づき他機関協働や住民協働，地域アセスメントなどについて学びます。
	第6回	非常時や災害時支援の実際 ・非常時や災害時のソーシャルワーク ・災害ソーシャルワークの目的と留意点，実際 以上の点について，実践的な視点から実例を交えて学びます。
	第7回	前半の振り返り，中間到達度テスト 前半の授業を振り返るとともに，理解度を確認するためのテストを行います。
	第8回	到達度テストの解説・援助関係の形成の意義と概念 ・到達度テストの解説を行い知識の定着を図ります ・ソーシャルワークの対象と援助関係 ・ソーシャルワークの定義及び構成要素から見た援助関係の意義と留意点 ・クライアントシステム並びにソーシャルワークの実践レベルと援助関係
	第9回	援助関係形成の意義と概念 ・社会福祉士の倫理綱領を踏まえた援助関係の形成方法と留意点 ・自己覚知と他者理解の意義 ・援助関係の形成方法 実際の場面に即して学びます
	第10回	援助関係の形成方法と留意点 ・対人関係の理論や方法から導かれる援助関係の形成方法 ・クライアントシステム（家族・友人・地域住民）との援助関係の形成 エンパワメントやストレンクス，面接等についても学びます
	第11回	ケースマネジメントにおける面接とアウトリーチ ・アウトリーチの対象やニーズの掘り起こし ・面接技術 一人ひとりの援助における実践方法や地域を対象とした実践方法などについて学びます
	第12回	ネットワーキング1 ・ネットワークとは何か，その意義と目的・方法 ・社会福祉分野におけるネットワーク，ネットワークの性質 総合的なネットワークの形成とシステム実際について解説します。
	第13回	ネットワーキング2 ・ネットワークの性質，機能 ・ネットワーク構築のプロセスと手法 総合的なネットワークの機能とプロセス，手法について解説します。
	第14回	後半のふりかえり 期末到達度テスト 後半の授業を振り返るとともに，理解度を確認するためのテストを行います。
	第15回	コーディネーション・期末到達度テストの解説 ・到達度テストの解説を行い知識の定着を図ります ・コーディネイトの意義と目的 ・IPWとIPE

	<p>協働のためのコーディネーションの実際について紹介します。</p> <p>※各回を通して、ケースワーカー、障害者施設職員、福祉行政、福祉法人の管理者としての経験など踏まえたエピソードなどをお話しします。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】 ソーシャルワークの実際場面において応用できる理論と方法の基本的事項を理解する。特にソーシャルワークにおけるミクロ・メソ、マクロの各階層ごとの対象者への支援と実践理論との接点を知ることにより、相談援助の概念及び実践理論がいかに現場実践に結びついているのかを体系的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワーカーとしての相談援助に関する知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題解決力、生涯学習力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・社会福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法（社会専門） ISBN：978-4-8058-8249-8 出版社：中央法規 著者名：一般財団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 価格（税抜）：2,900円</p>
参考文献	<p>テキスト名：新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版 ISBN：978-4-8058-5104-3 出版社：中央法規 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,600円講義中適宜紹介する。</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 ①毎回のリアクションペーパー（約30%） ②中間到達度テスト、期末到達度テスト（約70%）</p> <p>【フィードバックの方法】 リアクションペーパーを回収した次の授業内で総評を口頭で伝え及び質問に対し回答をする。</p>
質問・相談の受付方法	<p>①授業内で適宜、質問相談に応じる ②リアクションペーパーに積極的に記入して欲しい</p>
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生 【可】 聴講生 【可】 キャリアデザイン・カレッジ生 【可】</p>
メッセージ	<p>積極的な質問を歓迎します。 現場での経験や実務的な内容にお話ししたいと思います。なお、講義の進捗状況、テキストの改訂等に応じて授業計画が変更になる場合があります。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示します。次回授業までに予習を行ってください。（2時間） 【事後学習】 毎回授業後に履修者同士でディスカッションを行い、自分の意見を整理するようにしてください。（2時間）</p>

講義科目名称： ソーシャルワークの理論と方法（社会）B/相談援助の 授業コード： 30630  
理論と方法D（2020以前入学生）

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	選択
担当教員			
山本雅章			
添付ファイル			

テーマ	相談援助実習・演習科目に連動した「実践能力」を身につけるための理論と方法を学ぶ
授業計画	<p>第1回 ソーシャルワークA（前期）のふりかえり，ガイダンス</p> <p>第2回 社会資源の活用・調整・開発 ・ニーズ集約，提言，計画策定，実施，評価 ・ソーシャルワーク実践と社会資源の関係 ・社会資源の開発 ソーシャルワークにおける社会資源の理念や有効な活用について学びます。</p> <p>第3回 社会資源開発の様々方法 ・社会資源開発の方法 ・サービス改善 ・社会資源開発に必要なソーシャルワークのスキル ニーズ把握や福祉計画，自立支援協議会の実践を通して学びます。</p> <p>第4回 ソーシャルアクション 社会福祉制度・サービスの創設，改善・維持を目指して国や地方自治体に行政措置を取らせようとするソーシャルアクションについて理解し，その手法の活用などを学びます。</p> <p>第5回 カンファレンス ・社会福祉士としての業務や実践における会議 ・会議や会議について学ぶ上での留意点，会議の運営 カンファレンスはソーシャルワーク実践で多用される手法です。上記の点について，実践的な視点から学びます。</p> <p>第6回 ミクロ・メゾ・マクロの会議 ソーシャルワーカーがかかわるミクロ・メゾ・マクロレベルでの実践における様々な会議について，事例をとおして学びます。</p> <p>第7回 前半の振り返り，中間到達度テスト 前半の授業を振り返るとともに，理解度を確認するためのテストを行います。</p> <p>第8回 到達度テストの解説・事例分析，事例検討 ・到達度テストの解説を行い知識の定着を図ります。 ・事例分析とは，その目的と意義 ・事例の選定と分析の準備 ・事例分析のポイント 実際の事例研究を行うにあたっての事例分析の目的と意義，ポイントを学びます。</p> <p>第9回 事例研究 ・分析の目的と意義・方法とデザイン ・事例研究の手順，留意点 事例研究は多くの現場で活用されています。また，社会福祉学の発展にも欠かせません。その視点から，その意義や方法，手法について学びます。</p> <p>第10回 ネゴシエーション ・到達度テストの解説を行い知識の定着を図ります ・ネゴシエーションとその研究 ・交渉の基本，原則，プロセス ・交渉に挑む際に必要な要素 交渉は，福祉実践のみならず業務上必要な手法です。この基本概念や手法など幅広く学びます。</p> <p>第11回 コンフリクト・レゾリューション ・コンフリクトとコンフリクト・レゾリューション ・コンフリクトの構造ととらえ方 ・コンフリクト・レゾリューションに向けた方法とその発展 上記の基本的な内容を学びながら，実践で活用できるようにその方法を学びます。</p> <p>第12回 ファシリテーション ・ファシリテーションの定義と活用領域 ・会議やワークショップにおけるファシリテーター ・ファシリテーションプロセス 会議やワークショップでは，職員がこの役割を務める場面が多くみられます。実践的に活用できるように学びます。</p> <p>第13回 プレゼンテーション ・プレゼンテーションの意義と方法，留意点，評価 福祉職場や行政においても，企業と同様，的確なプレゼンテーションを行い，市民に理解を得るなどの機会が多くなっています。活用できるように学びます。</p> <p>第14回 後半のふりかえり，期末到達度テスト</p>

	<p>第15回</p> <p>期末到達度テストの解説・ソーシャル・マーケティング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達度テストの解説をとおして知識の定着を図ります。</li> <li>・ソーシャル・マーケティングの周縁とその広がり</li> <li>・近接領域におけるソーシャル・マーケティング</li> <li>・プロセス</li> <li>・実施と評価</li> </ul> <p>様々な社会問題を多様な主体で解決するとともに、顧客理解を進めながら事業展開を行う必要も生じています。その点からソーシャル・マーケティングを学びます。</p> <p>※各回を通して、ケースワーカー、障害者施設職員、福祉行政、福祉法人の管理者としての経験など踏まえたエピソードなどをお話します。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】ソーシャルワークの実際場面において応用できる理論と方法の基本的事項を理解する。特にソーシャルワークにおけるミクロ・メゾ、マクロの各階層ごとの対象者への支援と実践理論との接点を知ることにより、ソーシャルワークの概念及び実践理論がいかに現場実践に結びついているのかを体系的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】ソーシャルワーカーとしての相談援助に関する知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考、問題解決能力、生涯学習力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・社会福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）</p> <p>ISBN：978-4-8058-8249-8</p> <p>出版社：中央法規</p> <p>著者名：一般財団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟</p> <p>価格（税抜）：2,900円</p>
参考文献	<p>文献名：新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版</p> <p>ISBN：978-4-8058-5104-3</p> <p>出版社：中央法規</p> <p>著者名：社会福祉士養成講座編集委員会</p> <p>価格：2,600円</p> <p>講義中適宜紹介する。</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】①毎回のリアクションペーパー（約30%） ②中間到達度テスト，期末到達度テスト（約70%）</p> <p>【フィードバックの方法】リアクションペーパーを回収した次の授業内で、総評を口頭で伝え及び質問に対し回答をする。</p>
質問・相談の受付方法	<p>①授業内で適宜、質問相談に応じる</p> <p>②リアクションペーパーに積極的に記入して欲しい</p>
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>積極的な質問を歓迎します。</p> <p>ケースワーカー、障害者施設職員、福祉行政の管理職や社会福祉法人の役員としての組織マネジメント業務等の経験やなどを授業の中でエピソードや実務的な内容についても触れたいと思います。なお、講義の進捗状況、テキストの改訂等に応じて授業計画が変更になる場合があります。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】毎回授業内で予習内容を提示します。次回授業までに予習を行っておくこと（2時間）</p> <p>【事後学習】毎回授業後に履修者同士でディスカッションを行い、自分の意見を整理するようにしてください（2時間）</p>

講義科目名称： ソーシャルワークの理論と方法（精神） A 授業コード：

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
田中幸子			
添付ファイル			

テーマ	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク過程を学び、精神保健福祉士の実践展開を理解する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要 ソーシャルワークの構成要素、原理、理念、視点、知識、技術 【事前学習】 ソーシャルワークとは「何か」について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、原理・理念・視点について復習しておくこと（1時間）	
	第2回	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見インテークからアフターケア 【事前学習】 ミクロ・メゾ・マクロの視点について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、ソーシャルワークの展開過程について復習しておくこと（1時間）	
	第3回	ソーシャルワークの展開過程②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける展開 【事前学習】 ミクロ・メゾ・マクロの視点について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、ソーシャルワーク実践のあり方を復習しておくこと（1時間）	
	第4回	精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点① 人と環境の相互作用とは 【事前学習】 ソーシャルワーク実践における人と環境の相互作用について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、ソーシャルワークの基本的視点について復習しておくこと（1時間）	
	第5回	精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点② 精神障害および精神保健の課題を有する人とその家族が置かれている状況について 【事前学習】 精神障害者やその家族がおかれている状況について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、精神疾患や精神障害者が抱える諸問題などを復習しておくこと（1時間）	
	第6回	精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点③ 精神疾患や精神障害の特性を踏まえたソーシャルワークの留意点とは 【事前学習】 精神疾患や精神障害の特性について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、ソーシャルワークの留意点について復習しておくこと（1時間）	
	第7回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程① アウトリーチとは 必要な支援にアクセスできない当事者や家族へのアプローチについて 【事前学習】 精神保健福祉分野のアウトリーチとは何かを理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、アウトリーチの目的と方法について復習しておくこと（1時間）	
	第8回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程② インテークとは（主訴の把握・スクリーニング・契約について） 【事前学習】 インテークとは何かを理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、インテークの目的について復習しておくこと（1時間）	
	第9回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程③ アセスメントとは（情報から情報分析・解釈へ、人と環境の相互作用から捉えた問題の特性について） 【事前学習】 アセスメントとは何かを理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、アセスメントの意味について復習しておくこと（1時間）	
	第10回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程④ アセスメントとは その2 本人に関する理解（発達・医療健康面・心理情緒面、ストレスコーピングなど） 環境に関する理解（社会関係・住環境、関連する法制度等）とアセスメントツール（エコマップ等のマッピング法） 【事前学習】 アセスメントにおける本人や環境に対する支援とは何かを理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、アセスメントとソーシャルワーク実践について支援復習しておくこと（1時間）	
	第11回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑤ 援助関係の形成技法 バイステックの援助関係を形成する技法・自己決定・協働（パートナーシップ）・転移と逆転移・バウンダリー・自己覚知について 【事前学習】 バイステックの7原則および援助関係とは何かを理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、援助関係技法および対人援助職に必要なバウンダリーなどについて復習しておくこと（1時間）	
	第12回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑥ 面接技術とその応用とは（面接の構造・マイクロカウンセリング・生活場面面接・動機づけ面接について） 【事前学習】 面接技術の意味について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、様々な面接技術について復習しておくこと（1時間）	
	第13回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑦ 支援の展開・人と環境へのアプローチ・事例分析とは（エコロジカルアプローチとエンパワメントアプローチの展開について） 【事前学習】 エコロジカルアプローチとエンパワメントアプローチとは何かを理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、支援の展開のアプローチの方法の違いについて復習しておくこと（1時間）	
	第14回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑧ 支援の展開・ケアマネジメント（ケアマネジメントのプロセス・ケアマネジメントの実際・ACT、ストレングスモデルに基づくケアマネジ	



	<p>ント・障害者総合支援法におけるケアマネジメント等について)</p> <p>【事前学習】 ケアマネジメントの意義について理解しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】 講義で学んだ、ケアマネジメントの実際について復習しておくこと (1時間)</p> <p>まとめ これまで学んだソーシャルワークの過程について、精神保健福祉士として従事して来た経験をふまえ事例を挙げながら具体的に理解を深める</p> <p>【事前学習】 これまで学んだソーシャルワークの過程について授業でのレジュメから事前課題として提示した資料から理解しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】 講義で学んだ、ソーシャルワークの過程について復習しておくこと (1時間)</p>
第15回	
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】</p> <p>ソーシャルワークの基盤となる原則や理念を中心に据えながら、ソーシャルワークの理論と方法についての学習を、講義及びグループワーク等のアクティブラーニングを用いて実施する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害および精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワーク過程を理解する。</li> <li>・精神障害および精神保健福祉の課題を持つ人の家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。</li> <li>・精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。</li> </ul> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力と倫理観を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）</p> <p>ISBN:978-4-8058-8257-3</p> <p>中央法規出版 最新精神保健福祉士養成講座</p> <p>価格3,300円（税込）</p>
参考文献	適宜授業内で紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】</p> <p>授業内課題（60%=4%×15回）、レポート課題（30%）、授業への積極性（10%）を総合的に評価する。</p> <p>【課題に対するフィードバック方法】</p> <p>授業内課題に記載された質疑等について、次回の授業の冒頭にてフィードバックを行う。</p>
質問・相談の受付方法	<p>講義終了後及び空き時間に質問・相談を受け付ける。</p> <p>また、授業内課題に質問を記載する欄を設ける。</p>
履修条件	<p>「現代の精神保の課題と支援A・B」の単位を修得済もしくは、履修中であること。</p> <p>「精神保健福祉の原理A」の単位を修得済であることが望ましい。</p> <p>精神保健福祉士国家試験の指定科目である。</p> <p>精神保健福祉士養成課程のエントリーを希望する学生は、エントリー時までには本科目を履修しなければならない。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>授業終了時に提出する授業内課題により出席を確認する。</p> <p>精神科病院、就労継続支援施設等での勤務を経て、現在は産業分野（EAP）で業務を行っている。現役の精神保健福祉士が行う授業であるため、ソーシャルワークをより身近に感じてもらえるよう、エピソード等を交えながら授業を展開していく。</p> <p>授業の内容に応じてゲストスピーカーを招くことがある。</p>
準備学習について	毎回、授業で予習と復習について指示をする。



講義科目名称： 精神保健福祉の原理A

授業コード：

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
髯領太郎			
添付ファイル			

テーマ	障害者福祉の理念について学び、「障害」と「障害者」の概念を理解する。精神障害者の実態に触れることを通じて、社会的排除、社会的障壁について理解する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 精神保健福祉の原理を学ぶ意義 講義スケジュール及び成績評価、講義趣旨についての説明 ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士</p> <p>第2回 障害者福祉の思想と原理 優性思想と社会的防衛、基本的人権の尊重、社会正義の実現、法の下での平等</p> <p>第3回 障害者福祉の理念 リハビリテーション、ノーマライゼーション、エンパワメント、自立生活、機会均等、インクルージョン</p> <p>第4回 障害者福祉の歴史的展開 基本的人権の保障（自由権と社会権）、自立支援・社会参加支援、消費者としての権利保障</p> <p>第5回 「障害」と「障害者」の概念 国際生活機能分類（ICF）</p> <p>第6回 制度における「精神障害者」の定義 障害者基本法、障害者総合支援法</p> <p>第7回 精神障害の障害特性 蜂谷モデル、ICFモデル、上田敏モデル</p> <p>第8回 社会的排除と社会的障壁① 諸外国の動向 ピアーズ、魔女裁判/ビネル、精神障害者の保護及び精神保健ケア改善のための諸原則（1991）</p> <p>第9回 社会的排除と社会的障壁② 日本の精神保健施策に影響を与えた出来事 相馬事件（精神病患者看護法、精神病院法、呉秀三）、ライシャワー事件（精神衛生法の改正）、宇都宮病院事件（精神保健法、精神保健指定医）、大和川病院事件（精神保健福祉法における入院制度、地域移行）、池田小学校事件（医療観察法）、相模原事件（措置入院の運用等の整理）等</p> <p>第10回 社会的排除と社会的障壁③ 日本の社会的障壁 欠格条項、強制不妊手術、保健体育の教科書等、古典的偏見と制御可能型偏見 コンフリクトの種類（本質的コンフリクトと感情的コンフリクト）とレベル（マイクロ、メソ、マクロ）、人権侵害としての施設コンフリクト、アルコール・薬物問題の取締法と刑罰、自己責任論と受療への障壁</p> <p>第11回 特定非営利活動法人わびねす特別講義 ハンセン病問題と社会活動（仮）</p> <p>第12回 精神障害者の生活実態① 精神科医療の特異性 強制入院・治療、精神科特例、病床数と在院日数、隔離、身体的拘束、多剤併用 等</p> <p>第13回 精神障害者の生活実態② 精神障害者の家族 保護義務者の歴史、家族とその生活実態、家族の多様性</p> <p>第14回 精神障害者の生活実態③ 精神障害者の社会生活 居住形態、家族の同居率、生活保障（生活保護・年金・手帳）、就労状況</p> <p>第15回 全体のまとめ 本授業のまとめ（質疑応答、グループ討議：本授業で学んだこと）</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 ソーシャルワークの定義、理念、方法、体系、歴史等を中心に、ソーシャルワーク全般と精神保健福祉との関連性についての学習を、講義及びグループワーク等アクティブラーニングを用いて実施する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. 「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。 2. 精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について理解する。 3. 精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえて、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、実践的に課題を発見する力、地域を視野に貢献する力を及び「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
テキスト	テキスト名：最新 精神保健福祉士養成講座 5 『精神保健福祉の原理』 ISBN978-4-8058-8256-6

	出版社：中央法規 著者名：日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集委員会 価格（税抜）3,000円
参考文献	空閑浩人著「ソーシャルワーク論」ミネルヴァ書房 2016 窪田曉子著「福祉援助の臨床－共感する他者として」誠信書房 2013
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】 授業内課題（60%=4×15回）、レポート課題（30%=15%×2回） 授業への積極性・学習態度（10%）を総合的に評価する。 【フィードバック方法】 授業内課題に対する質疑、リアクションを次回の授業の冒頭を実施する。
質問・相談の受付方法	授業終了後及びオフィスアワー等（研究棟 105号室）にて質問・相談を受け付ける。 また、授業内課題に疑問点・質問を記載する欄があるため積極的に活用してほしい。
履修条件	【希望的条件】 「現代の精神保健の課題と支援A・B」の単位を修得していることが望ましい。 精神保健福祉士国家試験の指定科目である。 精神保健福祉士養成課程のエントリーを希望する学生は、エントリー時までには本科目を修得しなければならない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	精神保健福祉士を目指さなくとも精神保健福祉に関心ある学生を歓迎する。 出欠席は、授業終了時に提出する授業内課題により確認する。 精神保健福祉業務（精神科病院、地域活動支援センター、相談支援事業所における相談援助業務）に約15年間、従事してきた経験を基に精神保健福祉の実情についても紹介する。 授業の内容に応じて、実践者や当事者をゲストスピーカーとして招くことがある。
準備学習について	【事前学習】 毎回授業内で予習について指示する。（1時間程度） 【事後学習】 毎回授業で配布する資料の確認を指示する。（1時間程度）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
鶴領太郎			
添付ファイル			

テーマ	ソーシャルワークの定義、理念を学び、「精神保健福祉士」の資格化の経緯と精神保健福祉の原理と理念を知ることを通して、社会における「精神保健福祉士」の機能と役割について理解する。
授業計画	<p>第1回 「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯 精神医学ソーシャルワーカー協会の設立、Y問題、倫理綱領の規定と経緯、資格化までの経緯</p> <p>第2回 精神保健福祉士の原理・価値 社会的復権と権利擁護、自己決定、当事者主体、社会正義、ごく当たり前の生活</p> <p>第3回 精神保健福祉士の観点・視点 人と環境の相互作用、生活者の視点、エンパワメント、リカバリー、アンチスティグマ、ハームリダクション</p> <p>第4回 精神保健福祉士とクライアントとの関係性 加害性、援助関係、間主観（相互主体性）、協働関係</p> <p>第5回 「精神保健福祉士」の機能と役割① 精神保健福祉士法制定と改訂の経緯、法の目的・定義、義務規定・誠実義務、信用失墜行為の禁止、秘密保持、連携等、資質向上の責務、社会福祉士法及び介護福祉士法との関係</p> <p>第6回 「精神保健福祉士」の機能と役割② 精神保健福祉士の倫理綱領、倫理的ジレンマ、専門職団体の意義と役割</p> <p>第7回 「精神保健福祉士」の機能と役割③ 精神保健福祉士の業務特性① 価値、理念、視点、知識、技術による業務構成</p> <p>第8回 「精神保健福祉士」の機能と役割④ 精神保健福祉士の業務特性② ミクロ・メゾ・マクロの連続性（包括的アプローチ）、連携（多職種連携・多機関連携）における精神保健福祉士の役割</p> <p>第9回 「精神保健福祉士」の機能と役割⑤ 精神保健福祉士の職場・職域① 配置状況（医療（病院・診療所）、福祉（障害福祉サービス等事業所）</p> <p>第10回 「精神保健福祉士」の機能と役割⑥ 精神保健福祉士の職場・職域② 配置状況（行政（精神保健福祉センター・保健所・市町村・保護観察所）、教育、司法、産業等）</p> <p>第11回 「精神保健福祉士」の機能と役割⑦ 精神保健福祉士の業務内容と業務指針、業務に基づく業務の展開例</p> <p>第12回 協働作業としてのソーシャルワークの展開① ソーシャルワークの展開 インテーク、契約、アセスメント、支援計画、支援（介入）、モニタリング、終結</p> <p>第13回 協働作業としてのソーシャルワークの展開② ソーシャルワークの3領域（ミクロ・メゾ・マクロ） 個別支援のあり方</p> <p>第14回 協働作業としてのソーシャルワークの展開③ グループを対象とした支援、地域を対象とした支援 グループワークのプログラム、プロセス、地域活動の展開、調査活動、広報、情報</p> <p>第15回 全体のまとめ 本授業のまとめ（質疑応答、グループ討議：本授業で学んだこと）</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 精神保健福祉士の機能、役割等を中心に、ソーシャルワーク全般と精神保健福祉との関連性についての学習を、講義及びグループワーク等アクティブラーニングを用いて実施する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. 精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。 2. 現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。 3. 精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、実践的に課題を発見する力、地域を視野に貢献する力を及び「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 精神保健福祉士養成講座 5 『精神保健福祉の原理』 ISBN978-4-8058-8256-6 出版社：中央法規 著者名：日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集委員会 価格（税抜）3,000円</p>

参考文献	空閑浩人著「ソーシャルワーク論」ミネルヴァ書房 2016 窪田暁子著「福祉援助の臨床ー共感する他者として」 誠信書房 2013
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】 授業内課題（60%=4%×15回）、レポート課題（30%=15%×2回） 授業への積極性・学習態度（10%）を総合的に評価する。 【フィードバック方法】 授業内課題に対する質疑、リアクションを次回の授業の冒頭を実施する。
質問・相談の受付方法	授業終了後及びオフィスアワー等（研究棟 105号室）にて質問・相談を受け付ける。 また、授業内課題に疑問点・質問を記載する欄があるため積極的に活用してほしい。
履修条件	【希望的条件】 「現代の精神保健の課題と支援A・B」の単位を修得していることが望ましい。 精神保健福祉士国家試験の指定科目である。 精神保健福祉士養成課程のエントリーを希望する学生は、エントリー時までには本科目を修得しなければならない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	精神保健福祉士を目指さなくとも精神保健福祉に関心ある学生を歓迎する。 精神保健福祉業務（精神科病院、地域活動支援センター、相談支援事業所における相談援助業務）に約15年間、従事してきた経験を基に精神保健福祉の実情についても紹介する。 授業の内容に応じて、実践者や当事者をゲストスピーカーとして招くことがある。
準備学習について	【事前学習】 毎回授業内で予習について指示する。（1時間程度） 【事後学習】 毎回授業で配布する資料の確認を指示する。（1時間程度）

講義科目名称： 心理的アセスメント

授業コード： 28100 28150

英文科目名称： - /Exercises of psychological tests A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
橋木てる子			
添付ファイル			

テーマ	心理検査を含む心理アセスメントについて学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、心理アセスメントとは</p> <p>第2回 心理アセスメントの観点</p> <p>第3回 心理アセスメントの展開</p> <p>第4回 ケース・フォーミュレーション</p> <p>第5回 面接法</p> <p>第6回 観察法、面接における観察</p> <p>第7回 心理検査1（知能検査）</p> <p>第8回 心理検査2（発達検査、認知機能検査）</p> <p>第9回 心理検査3（質問紙法）</p> <p>第10回 心理検査4（作業検査法、自記式評価）</p> <p>第11回 心理検査5（投影法）</p> <p>第12回 質問紙法検査の受検と結果算出の実習</p> <p>第13回 質問紙法検査の結果算出と解釈、報告書の作成の実習</p> <p>第14回 個別式検査の施行の実習</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】講義、ディスカッション、実習などを通して、心理アセスメントに関する知識や基本的スキルを学ぶ。</p> <p>【到達目標】心理アセスメントに関する知識や基本的スキルを習得する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」、「主体的に学習する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「コミュニケーション・スキル」、「論理的思考力」、「倫理観」を身につけることができる。</p>
テキスト	なし。随時、資料を配布する。
参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】授業参加への積極性（15%）、提出課題の完成度（25%）、授業内の小テスト（60%）から評価する。</p> <p>【フィードバック方法】課題への総評は次の授業時に行う。成績評価のフィードバックについては、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後の教室にて、またはオフィスアワーの時間帯にて受け付ける。
履修条件	心理学概論AB、発達心理学AB、心理学統計法AB、臨床心理学概論の単位を取得済みあるいは履修中であることが望ましい。
特別学生の履修可否	科目等履修生【要件を満たしていれば可】 聴講生【要件を満たしていれば可】

	キャリアデザイン・カレッジ生【要件を満たしていれば可】
メッセージ	2018年以降の入学生にとっては公認心理師養成科目になります。2年後期の心理演習Aの履修条件にも影響してきますので、公認心理師の受験資格取得を考えている方は必ず履修してください。 また、心理職として心理検査をはじめとする心理アセスメントを実践してきた経験を授業のなかで反映させていきたいと考えています。
準備学習について	授業で小テストを実施します。授業時間外で振り返りを行うようにしてください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
本多祥子			
添付ファイル			

テーマ	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活について理解する。
授業計画	<p>第1回 人間の成長と発達の基礎的理解①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「成長」「発達」の原則・法則（「成長」「発達」「成熟」の違い）</li> <li>・生理的発達（スキヤモンの発達曲線/グループワーク）</li> </ul> <p>第2回 人間の成長と発達の基礎的理解②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「成長」「発達」の考え方と環境</li> <li>・「成長」「発達」に影響する要因</li> </ul> <p>第3回 発達段階と発達課題①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達理論</li> </ul> <p>第4回 発達段階と発達課題②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達理論における発達段階と発達課題</li> </ul> <p>第5回 発達段階と発達課題③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的機能の「成長」「発達」</li> <li>・発達段階別の特徴的な疾病</li> </ul> <p>第6回 発達段階と発達課題④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理的機能の発達</li> </ul> <p>第7回 発達段階と発達課題⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的機能の発達</li> </ul> <p>第8回 老年期の特徴と発達課題①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老年期の定義</li> </ul> <p>第9回 老年期の特徴と発達課題②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老化とは</li> </ul> <p>第10回 老年期の特徴と発達課題③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老年期の発達課題</li> <li>・老年期をめぐる今日的課題</li> </ul> <p>第11回 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老年期に経験しやすいライフイベント</li> <li>・喪失体験と死別への適応</li> </ul> <p>※医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、老年期の環境に伴うこころとからだの変化について事例を挙げて説明します。</p> <p>第12回 高齢者のこころの問題と精神障害 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的な変化と生活への影響</li> </ul> <p>第13回 老年期の統合失調症とせん妄 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理的な変化と生活への影響</li> </ul> <p>第14回 老年期の日常生活 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的な変化と生活への影響</li> </ul> <p>第15回 総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】命の誕生から死に至るまでの心身の発達や成長・成熟、生理的変化を学ぶ。</p> <p>【到達目標】ライフサイクルの各期における身体的・心理的・社会的特徴、発達課題について理解することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解 第2版</p> <p>ISBN：978-4-8058-8401-0</p> <p>出版社：中央法規</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末試験：課題：授業での積極性＝50：30：20</li> <li>・学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> <li>・課題レポートは、レポートを回収した次の回の授業内で総評を口頭で伝える。</li> </ul>

バック方法	
質問・相談の受付方法	講義終了後、オフィスアワー等で適宜受け付ける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	介護福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目です。 積極的な発言を期待します。 医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、授業の中でそのエピソードや実務的な内容についても触れることができればと思います。
準備学習について	【事前学習】 授業内で予習内容を提示します。(1時間) 【事後学習】 授業内で復習内容を提示します。(1時間)



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
新井恵子			
添付ファイル			

テーマ	認知症介護の基礎
授業計画	<p>第1回 認知症を取り巻く状況（認知症高齢者の現状と今後）</p> <p>第2回 認知症ケアの理念と視点 介護に従事していた際の介護現場の実際に触れながら、認知症ケアの理念と視点について解説します。</p> <p>第3回 本人本位の視点—認知症の人の体験— 認知症の高齢者と若年性認知症の人の体験を通し、認知症の人を主体とする視点について学びます。</p> <p>第4回 認知症ケアの歴史</p> <p>第5回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識① 認知機能の障害 脳のしくみと記憶・認知症による障害を学びます。</p> <p>第6回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識② 認知症の人の心理 認知症の人の体験から考えます。</p> <p>第7回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識③ 生活上の障害</p> <p>第8回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識④ 対人関係の障害</p> <p>第9回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識⑤ 社会関係の障害</p> <p>第10回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア① パーソン・センタード・ケア他 生活に及ぼす認知機能の変化と影響をもとに、パーソン・センタード・ケア、ユマニチュード、回想法等を学びます。</p> <p>第11回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア② アセスメントツール、診断</p> <p>第12回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア③ コミュニケーションの方法（グループワーク） 認知機能障害の事例を用いて認知症の人へのかかわり方、コミュニケーションの方法を検討する機会とします。</p> <p>第13回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア④ 認知症の人へのケア（ディスカッション） 認知機能障害の事例を用いて検討した内容を発表し、他者の考えも含め、認知症の人へのかかわり方、コミュニケーションの方法等から認知症の人へのケアについて考える機会とします。</p> <p>第14回 予防と認知症の治療</p> <p>第15回 総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 認知症に関する基礎的知識を理解し、認知症のある人の生活における介護の視点を述べるができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 第2版」</p> <p>ISBN：978-4-8058-8402-7</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中、適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】</p> <p>学期末試験：レポート：授業での積極性＝60：25：15</p> <p>【フィードバック方法】 授業内の発表は、口頭にて講評を行う。レポートは、提出後の次の授業内で口頭にてコメントする。学期末試験については、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>

質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	介護福祉士国家試験の指定科目です。 高齢者施設と訪問介護の職員として従事した経験を、授業の中で、そのエピソードや実務的な内容についても触れることができると思います。
準備学習について	【事前学習】認知症の人の手記を読み、認知症の「人」の理解に努めること。授業時に課題を提示しますので、次回授業までに行うこと（1時間以上） 【事後課題】授業時に課題を提示。次回までに取り組み授業に臨むこと（1時間）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
木下寿恵			
添付ファイル			

テーマ	障がいのある人の生活を理解し、介護の視点を習得する		
授業計画	第1回	障害の基礎的理解①（障害の概念、障害の法的定義）	
	第2回	障害の基礎的理解②（障害者福祉の基本理念）	
	第3回	障害の基礎的理解③（障害者福祉に関する制度、障害者福祉制度と介護保険制度）	
	第4回	視覚障がいを持っている人たちの生活①（障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解） 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します	
	第5回	視覚障がいを持っている人たちの生活②（障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援） 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します	
	第6回	聴覚・言語障がいを持っている人たちの生活①（障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解） 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します	
	第7回	聴覚・言語障がいを持っている人たちの生活②（障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援） 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します	
	第8回	障害を持っている人たちの心理、肢体不自由（運動機能障がい）を持っている人たちの生活①（障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解） 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します	
	第9回	肢体不自由（運動機能障がい）を持っている人たちの生活②（障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援）、肢体不自由者にとっての補装具 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します	
	第10回	知的障がいを持っている人たちの生活①（障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解） 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します	
	第11回	知的障がいを持っている人たちの生活②（障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援） 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します	
	第12回	精神障がいを持っている人たちの生活（障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解、障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援） 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します	
	第13回	内部障がいを持っている人たちの生活①（障害の基礎的理解） 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します	
	第14回	内部障がいを持っている人たちの生活②（障害の医学的・心理的側面の基礎的理解） 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します	
	第15回	内部障がいを持っている人たちの生活③（障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援） 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します	
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】障がいのある人たちの心理や身体状況に関する基礎的知識を習得するとともに、障がいのある人たちが経験している事柄を理解し、家族等周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ</p> <p>【授業の到達目標】障がいのある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的知識を習得することができる。障がいのある人の地域での生活を理解し、家族や地域周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得することができる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「実践的に課題を発見する力」「課題を解決へと導く力」及び「学士力」の構成要素の一つである「コミュニケーション・スキル」「問題解決力」を身につけることができる</p>		

テキスト	テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第2版 ISBN：978-4-8058-8403-4 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編 価格（税抜）：2,200円
参考文献	『最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ 第2版』中央法規出版 *1年次に購入したものそれぞれの障がいと当事者に関する文献などは、講義内で適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】学期末試験：レポート等提出物=80：20 【フィードバック方法】学期末試験やレポートに関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う
質問・相談の受付方法	オフィスアワー（後日掲示）とメール(kino@suw.ac.jp)を積極的に活用してほしい。
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	介護福祉士国家試験の指定科目です。 身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員（介護主任など）として6年6ヵ月間介護に従事していました。日常生活を支援する中での障がい者とその家族の思いや状況などを、授業の中でお伝えしていきたいと考えています
準備学習について	【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと(2時間) 【事後学習】 授業で配布したプリントやテキストの該当ページを読み復習しておくこと(2時間)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
村松幹子			
添付ファイル			

テーマ	保育士として必要な乳児保育の基礎知識を理解し、習得する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 自己紹介 授業の進め方について 保育所における乳児保育の視聴（ビデオ）</p> <p>第2回 乳児保育の意義・目的・歴史の変遷 講義（エピソードを通して） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第3回 乳児保育の現状と課題 講義（社会的状況の把握から） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第4回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈1〉社会的発達 講義（具体的な保育の場面からの理解） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第5回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈2〉身体的発達 講義（発達のめやす 写真からの理解） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第6回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈3〉精神的発達 講義（保育の写真を参考に） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第7回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈4〉自己の形成 講義（具体的な保育場面から） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第8回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈5〉集団の中の育ち 講義（保育の写真を参考に） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】保育所保育指針第2章1項、2項を一読しておく（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第9回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本 〈1〉保育者のかかわりの基本 講義（エピソードなどから） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第10回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本 〈2〉保育所と保護者との連携 講義（おたよりを参考に） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第11回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本 〈3〉3歳未満児の生活と環境 講義（保育所での実践例を使いながら）</p>

	<p>わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第12回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本〈4〉3歳未満児の遊びと環境 講義（保育所での実践例を使いながら）</p> <p>わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第13回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本〈5〉2歳から3歳への移行期の保育 講義（保育所での実践例を使いながら）</p> <p>わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第14回 乳児保育の計画・記録・評価の意味 講義（保育所での実践例を使いながら）</p> <p>わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第15回 連携と協働 職員間・関係機関・保護者 講義（具体的な事例から）</p> <p>わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 乳児保育の意義と目的、3歳未満児の発達の理解 毎回の授業の冒頭においてわらべうたを1曲ずつ、覚えていく。</p> <p>【到達目標】 乳児保育に必要な基礎知識を身に付け、実践へとつなげる 【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：乳児保育の理論と実践 I S B N：978-4-332-70196-5 出版社：光生館 著者名：阿部和子・大方美香 編著 価格（税別）：本体1,900円</p>
参考文献	保育所保育指針
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 授業への意欲・授業の中で行われる10回の小テストの合計点（100点満点）で評価する。</p> <p>【フィードバック方法】 学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う</p>
質問・相談の受付方法	授業終了時・随時
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】聴 講 生 【可】
メッセージ	保育園園長として20年余り、授業の中で経験と実践に基づく具体的な見識を伝えていこうと思います。毎回の授業で保育の場で実際に活用しているわらべうた等を学びます。また授業においては事例やエピソード、写真、動画等ををふんだんに活用して進めていきます。
準備学習について	<p>【事前学習】授業内で提示する。次回授業までに行っておくこと 【事後学習】毎回の授業でわらべうたを学ぶ。楽譜等を配布するので必ず、ファイリングし、復習しておく。 小テストに備えた授業の振り返り</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
灰谷和代			
添付ファイル			

テーマ	子どもと家庭にかかわる福祉制度や支援について学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、子ども・家庭・福祉とは 【事後学習】 子ども・家庭・福祉についてまとめる (1時間)</p> <p>第2回 子ども家庭福祉の展開①子ども観と子どもの権利 【事前学習】 子ども観と子どもの権利を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 子ども観と子どもの権利についてまとめる (1時間)</p> <p>第3回 子ども家庭福祉の展開②歴史的展開 【事前学習】 子ども家庭福祉の歴史的展開を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 子ども家庭福祉の歴史的展開についてまとめる (1時間)</p> <p>第4回 子どもと家庭にかかわる法制度・関係機関と専門職の役割 【事前学習】 法制度・関係機関・専門職を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 法制度・関係機関・専門職についてまとめる (1時間)</p> <p>第5回 乳幼児期の子どもがいる家庭の支援と制度①母子保健 【事前学習】 母子保健を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 母子保健についてまとめる (1時間)</p> <p>第6回 乳幼児期の子どもがいる家庭の支援と制度②保育 【事前学習】 保育を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 保育についてまとめる (1時間)</p> <p>第7回 乳幼児期の子どもがいる家庭の支援と制度③子育て支援 【事前学習】 子育て支援を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 子育て支援についてまとめる (1時間)</p> <p>第8回 少年期の子どもがいる家庭の支援と制度①児童健全育成 【事前学習】 児童健全育成を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 児童健全育成についてまとめる (1時間)</p> <p>第9回 少年期の子どもがいる家庭の支援と制度②非行 【事前学習】 非行を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 非行についてまとめる (1時間)</p> <p>第10回 少年期の子どもがいる家庭の支援と制度③いじめ・不登校 【事前学習】 いじめ・不登校を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 いじめ・不登校についてまとめる (1時間)</p> <p>第11回 障がいのある子どもがいる家庭の支援と制度 【事前学習】 障がい児の支援と制度を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 障がい児の支援と制度についてまとめる (1時間)</p> <p>第12回 ひとり親家庭の支援と制度 【事前学習】 ひとり親家庭の支援と制度を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 ひとり親家庭の支援と制度についてまとめる (1時間)</p> <p>第13回 子どもの貧困の現状と対策 【事前学習】 子どもの貧困の現状と対策を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 子どもの貧困の現状と対策についてまとめる (1時間)</p> <p>第14回 児童虐待とDV (ドメスティックバイオレンス) の現状と課題 【事前学習】 児童虐待とDVの現状と課題を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 児童虐待とDVの現状と課題についてまとめる (1時間)</p> <p>第15回 子ども家庭福祉における支援の実際 子ども家庭福祉における多問題家族の事例を用いて支援の実際を知る ※事例は、担当教員の実務経験に基づいて作成したオリジナル事例を用いる 【事前学習】 今までの授業を振り返りまとめる (1時間) 【事後学習】 子ども家庭福祉における支援の実際についてまとめる (1時間)</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】 子ども家庭福祉の歴史的展開などを理解した上で、子どもの年代ごとや子ども家庭の課題ごとの福祉制度や支援システムについて学ぶことで、保育現場や児童福祉現場での子どもと家庭の課題を解決に導くための基本的な知識と力を養うことを到達目標としている。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部で学ぶ「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」と「主体的に学習する力」、および「学士力」の構成要素の一つである「人間の文化、社会と自然に関する知識の理解」「チームワーク・リーダーシップ」を身につける。</p>
テキスト	<p>テキスト名：新版 よくわかる子ども家庭福祉 第2版 ISBN： 9784623095131 出版社：ミネルヴァ書房 著者名：吉田幸恵、山縣文治 編著</p>



	価格（税抜）：2,400円
参考文献	必要に応じて授業の中で紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 授業への積極性（ワークシート・コメントペーパーの提出状況と記述内容、ディスカッションやグループワーク等への参加状況等による評価）（50%）、学期末のレポート（50%）で評価する。</p> <p>【課題に対するフィードバック方法】 ワークシートやコメントペーパーを回収した時は、次回の授業内で総評を口頭で伝える。ディスカッション等の報告内容については必要に応じてコメントする。</p>
質問・相談の受付方法	授業の前後やメール等で受け付ける。
履修条件	特に設けないが、子ども学科の必修科目である。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	毎回（第1回目を除く）の授業で、各自が事前にまとめた事前ワークシートを基にディスカッション等の時間を設ける。毎回の授業終わりに次回の事前ワークシートを配布するので次回授業までに必ずまとめておくこと。また、毎回の授業でコメントペーパーの提出を求める。※初回授業で詳細を説明するので必ず出席すること。担当教員は、保育所等での保育、地域における子育て支援、市役所等での相談援助の実務経験があるのため、必要に応じて実務経験に基づく現場の実際などを紹介する。
準備学習について	<p>【事前学習】毎回（第1回目授業を除く）、次回の授業にかかわる内容についてテキスト等を調べて事前ワークシートにまとめる（1時間）</p> <p>【事後学習】毎回、授業終了後にテキストや配布資料を読んでまとめる（1時間）</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
福田幸夫、灰谷和代			
添付ファイル			

テーマ	社会的養護の基本理念と原則に則った子どもの支援について		
授業計画	第1回	授業オリエンテーション、社会的養護の意義と変遷 社会的養護の歴史を踏まえ、現代社会における子どもと家族が抱える問題について学び、社会的養護を学ぶ意味と保育士の役割を理解する。(テキスト第1講 p2~p18) *授業内課題の提出 *次回までの復習課題の提示	
	第2回	児童の人権擁護と社会的養護 子どもの権利を社会的養護の場でどのように展開するか、また、施設保育士としての倫理と責務について学ぶ。(テキスト第2講 p19~p33) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示	
	第3回	家庭の機能と社会的養護(レポート授業①) 子どもが生活する場における家庭機能について理解し、家庭養護と施設養護の体系を学ぶ。(テキスト第3講 p34~48) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示	
	第4回	社会的養護の基本原則Ⅰ：養育一日常生活支援— 子どもの人権に配慮した日常生活支援の実践を学び、施設規模による養育への影響について考察する。(テキスト第4講 p49~61) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示	
	第5回	社会的養護の基本原則Ⅱ：保護—自己実現に向けた支援— 施設における子どもの支援と親子関係調整、地域との関係調整について理解する。(テキスト第5講 p62~73) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示	
	第6回	社会的養護の基本原則Ⅲ：子どもであることへの回復—治療的支援— 被虐待児の心の癒しや傷の回復への支援、施設内の他職種とのチームワークについて理解する。(テキスト第6講 p74~p85) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示	
	第7回	社会的養護の基本原則Ⅳ：生活文化と生活力の習得—自立支援— 日常生活を通して生活文化と生活力を習得する支援の実践を具体的に学ぶ。自立支援のあり方を学び、保育士の専門性を理解する。(テキスト第7講 p86~p100) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示	
	第8回	社会的養護の基本原則Ⅴ：生命倫理観の醸成—生と性の倫理—(レポート授業②) 生と性の倫理について、社会的養護における捉え方、支援について学ぶ。映像資料により、命の誕生と特別養子縁組を題材に生命倫理について考える。(テキスト第8講 p101~p117) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示	
	第9回	社会的養護の制度と実施体系 制度と実施の体系、社会的養護に携わる専門職について学ぶ。(テキスト第9講 p118~p134) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示	
	第10回	施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ—乳児院と児童養護施設—	

	<p>乳児院・児童養護施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。(テキスト第10講 p135～p147) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第11回 施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ—障害児の入所施設— 障害児の入所施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。(テキスト第11講 p148～p159) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第12回 施設養護の対象・形態・専門職Ⅲ—児童自立支援施設と児童心理治療施設— 社会に適応しづらい子どもの入所施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。(テキスト第12講p160～170) *復習課題⑤ (提出期限:7月31日) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第13回 家庭養護の特徴・対象・形態—里親・ファミリーホーム— 里親とファミリーホームについて、制度と養育の実際を学ぶ。(テキスト第13講 p171～p194) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第14回 社会的養護の現状と課題Ⅰ 施設の運営管理について基礎的に知識を得る。また、保育士としての倫理の確立と権利擁護の仕組みについて学ぶ。(テキスト第14講 p195～p215) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示 *総括レポート課題提示 (提出期限:15回授業時)</p> <p>第15回 社会的養護の現状と課題Ⅱ 被措置児童等虐待の防止、地域福祉との関係、施設保育士として求められる専門性について学ぶ。(テキスト第14講 p216～p238) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *総括レポートの提出</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業概要】児童福祉施設で働く施設保育士に必要な社会的養護の知識と技術を習得する。児童養護の歴史と体系、関連する法律、児童福祉施設や里親による養育の実際と自立支援、家族支援について学ぶ。「児童虐待」「トラウマ」「愛着障害」「発達障害」等に関する知識を身につけ、生活場面における支援、家族関係の調整、学校や地域との連携、援助者の資質、倫理等について理解する。</p> <p>【到達目標】 ①権利擁護を踏まえた子どもの支援について理解し、説明できる。 ②社会的養護における子どもとその家庭に対する支援方法について理解し、説明できる。 ③社会的養護の理念と原則について理解し、説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部が学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、①知識・技能を理解する力、②主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである⑩倫理観を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ ISBN：978-4-89347-324-0 出版社：萌文書林 著者名：吉田眞理編著、坂本正路、高橋一弘、村田紋子 価格(税抜)：2,000円</p>
<p>参考文献</p>	<p>『子ども虐待』西澤哲(講談社)、『児童福祉施設の子どもたち』大久保真紀(高文研)、『「家族」をつくる養育里親という生き方』村田和木(中央公論新社)</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法</p>	<p>授業内の課題提出30%、復習小テスト14回25%、復習課題14回25%、総括レポート1回20% 次回授業日に、授業内課題や復習小テストについて講評及び回答をフィードバックし、解説する。成績については、学内の成績評価問い合わせ制度に則り、説明を行う。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>講義終了後、教室あるいは講師控室(研究棟1階)で受け付ける。 また、各授業回にて提出課題に質問記入欄を設け、次回授業でフィードバックする。</p>
<p>履修条件</p>	<p>座席は状況により固定するので、従うこと。</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>母子生活支援施設の母子支援員として7年間働いていました。授業のなかで、実務経験からのエピソードに触れていきたいです。社会的養護では、様々な事情を抱え、実の親によらない養育環境で育つ子どもについて学びます。保育士として必要な専門的知識を身につけるとともに、将来、様々な状況にある子どもと家族に対して理解して関われる「市民」となってください。</p>
<p>準備学習について</p>	<p>【事前学習】各授業の前に1時間程度の予習として、所定のテキストページを読み、不明な単語等は調べておいてください。 【事後学習】授業後は復習課題(次回提出)をし、1時間程度再度テキストと授業時のプリントなどを読み返して復習し、次の小テストに備えてください。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
灰谷和代			
添付ファイル			

テーマ	保育者として必要な子ども家庭支援について学ぶ		
授業計画	第1回	オリエンテーション、子ども家庭支援とは 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)	
	第2回	子ども家庭支援の目標と機能 【事前学習】 テキストP11～19を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)	
	第3回	子ども家庭支援における保育者の役割 【事前学習】 テキストP20～35を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)	
	第4回	保育士に求められる基本的態度 【事前学習】 テキストP38～48を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)	
	第5回	保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援 【事前学習】 テキストP49～61を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)	
	第6回	保護者との相互理解と信頼関係の形成 【事前学習】 テキストP62～76を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)	
	第7回	家庭の状況に応じた支援 【事前学習】 テキストP77～93を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)	
	第8回	地域の資源の活用と関係機関との連携・協力 【事前学習】 テキストP94～102を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)	
	第9回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源 【事前学習】 テキストP104～118を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)	
	第10回	次世代育成支援対策と子ども・子育て新制度の推進 【事前学習】 テキストP119～140を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)	
	第11回	子ども家庭支援の対象と内容 【事前学習】 テキストP142～160を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)	
	第12回	保育所等利用児童とその家庭への支援 【事前学習】 テキストP161～175を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)	
	第13回	地域の子育て家庭への支援 【事前学習】 テキストP176～192を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)	
	第14回	要保護児童およびその家庭への支援 【事前学習】 テキストP193～209を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)	
	第15回	子ども家庭支援に関する現状と課題 【事前学習】 テキストP210～227を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)	
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】 保育者は、子どもに対する直接的な保育や支援だけでなく、保護者や家庭への支援が求められる。この授業では、子どもと家庭の現状やその支援や制度について主体的に学ぶことで、保育者として何が必要かを考え実践につなげることを到達目標とする。なお、この授業は毎回（第1回目を除く）、反転授業の形式で進める。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「主体的に学習する力」、及び「学士力」の構成要素の一つである「問題解決力」「チームワーク・リーダーシップ」を身につける。</p>		
テキスト	<p>テキスト名：「子ども家庭支援」 ISBNコード：978-4-623-07929-2 出版社：ミネルヴァ書房 著者名：倉石哲也、大竹智 編著 価格（税抜）：2,200円</p>		

参考文献	必要に応じて授業の中で紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】 授業への積極性（ワークシート・コメントペーパーの提出状況と記述内容、ディスカッション等への参加状況等による評価）（50%）、学期末のレポート（50%）で評価する。 【課題に対するフィードバック方法】 ワークシートやコメントペーパーを回収した時は、次回の授業内で総評を口頭で伝える。ディスカッション等の報告内容については必要に応じてコメントする。
質問・相談の受付方法	授業の前後やメール等で受け付ける。
履修条件	特に設けないが、保育士資格取得の必須科目である。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	毎回（第1回目を除く）の授業で、各自が事前にまとめた事前ワークシートを基にディスカッション等の時間を設ける。毎回の授業終わりに次回の事前ワークシートを配布するので次回授業までに必ずまとめておくこと。また、毎回の授業でコメントペーパーの提出を求める。※初回授業で詳細を説明するので必ず出席すること。担当教員は、保育所等での保育、地域における子育て支援、市役所等での相談援助の実務経験があるため、必要に応じて実務経験に基づく現場の実際などを紹介する。
準備学習について	【事前学習】 毎回（第1回目授業を除く）、次回の授業範囲のテキスト等を事前に読んで事前ワークシートにまとめる（1時間） 【事後学習】 毎回、授業終了後にテキストや配布資料を読んで復習する（1時間）

講義科目名称： 発達支援論

授業コード： 94020

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
上野永子			
添付ファイル			

テーマ	発達障がいの特徴に関する基礎知識及び、インクルーシブな社会の視点からその支援について学ぶ
授業計画	<p>第1回 集団における障害を持つ子ども</p> <p>第2回 生まれつきの発達特性①身体感覚</p> <p>第3回 生まれつきの発達特性②認知</p> <p>第4回 生まれつきの発達特性③コミュニケーション</p> <p>第5回 ASDとADHDの発達特性に応じた支援</p> <p>第6回 誤学習としての不適切な行動</p> <p>第7回 「発達の色になる子ども」の自己観</p> <p>第8回 「発達の色になる子ども」の支援①見通し</p> <p>第9回 「発達の色になる子ども」の支援②自尊心とセルフコントロール</p> <p>第10回 「発達の色になる子ども」の支援③手段としての言葉</p> <p>第11回 「発達の色になる子ども」の保護者支援①保護者支援としての子ども支援</p> <p>第12回 「発達の色になる子ども」の保護者支援②子ども支援としての保護者支援</p> <p>第13回 「発達の色になる子ども」の保護者支援③保育者の役割</p> <p>第14回 まとめ：インクルーシブな社会とは</p> <p>第15回 インクルーシブな社会実現に向けて</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】本講義では、発達障がいを持つ子どもの特性を理解した上で、その支援のあり方について学びます。また、子どものもつ「障がい」に起因するとされがちな子どもの問題行動には、保育者の対応に起因するものがあることを知り、インクルーシブな社会に向けて、何が必要なかを考えることを目的とします。</p> <p>【到達目標】保育者として必要な、インクルーシブな社会を実現するための基礎知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「色になる子の本当の発達支援 新版」</p> <p>ISBN：9784907537111</p> <p>出版社：風鳴舎</p> <p>著者：市川奈緒子</p> <p>価格（税抜）：1,700円</p>
参考文献	特になし
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>毎回の予習課題15%、講義中に課すレポート15% 学期末のレポート：70%で評価します。</p> <p>講義中に課すレポートについては、返却時に口頭でコメントする。</p> <p>期末レポートは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行います。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後の教室で、もしくは、オフィスアワーに個人研究室で、質問・相談に応じます。

履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	教育臨床の現場で臨床心理士として発達に課題のある子どもと養育者の支援を実践してきました。この授業を通して、みなさんの発達障がいについて、発想を転換してもらえればと思います。
準備学習について	授業内で、次回の子習内容を指示します。次回の授業までに予習を行い（1時間程度）、内容を理解して次回授業に臨んでください。 また、授業終了後に振り返りを行ってください（1時間程度）。

講義科目名称： 児童福祉心理学（2022以前入学生）

授業コード： 94070

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
上野永子			
添付ファイル			

テーマ	児童福祉現場における子どもの問題と臨床心理学的理解
授業計画	<p>第1回 自己理解として、自分自身の成育歴を振り返る</p> <p>第2回 子どもの発達（1）乳児期の問題と病理</p> <p>第3回 子どもの発達（2）幼児期の問題と病理</p> <p>第4回 子どもの発達（3）児童期の問題と病理</p> <p>第5回 子どもの発達（4）思春期の問題と病理</p> <p>第6回 逆境的小児期体験とトラウマについて</p> <p>第7回 児童虐待について</p> <p>第8回 DVについて</p> <p>第9回 非行について</p> <p>第10回 不登校について</p> <p>第11回 発達障がいについて</p> <p>第12回 トラウマのケアについて</p> <p>第13回 社会的養護の子どもたちについて</p> <p>第14回 子どもと離婚</p> <p>第15回 授業の総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】児童福祉現場において出会う、さまざまな子どもの課題（被虐待・DV・非行・不登校・発達障害など）について知り、子どもの「こころ」を大事にするために大人ができることについて知ることを目標とします。</p> <p>【到達目標】ケアワーカー・教育者として必要な、子どもの心理社会的問題についての知識を身につけます。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しません。適宜、プリントを配布します。
参考文献	参考文献は講義中に適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	毎回の予習課題(15%)：講義内で課すレポート(15%)：期末試験(70%)で評価します。講義内で課したレポートについては、返却時に口頭でコメントします。期末試験については、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行います。
質問・相談の受付方法	オフィスアワー（後日掲示）にて、質問・相談に応じます。
履修条件	特に設けません。

特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	臨床心理士として、様々な事例に携わってきました。それらの経験を講義内でも話題にしたいと考えています。心理学の視点から、社会の様々な問題について一緒に考えましょう。また、日程調整ができれば、講義内で里親さんの養育体験談についてお話しいただく機会を作ることを予定しています。決定次第、受講生にお知らせします。そのため、シラバスの順序が若干入れ替わることもあり得ます。
準備学習について	授業終了後に次回の予習内容を指示します。授業毎に、1時間以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨んでください。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	選択
担当教員			
上野永子			
添付ファイル			

テーマ	アタッチメントの視点から親子の関係性支援について学ぶ		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	人間の赤ちゃん	
	第3回	アタッチメントとは	
	第4回	乳幼児期のアタッチメント	
	第5回	乳幼児期のアタッチメントと心理社会的発達	
	第6回	保育現場におけるアタッチメント	
	第7回	児童期のアタッチメント	
	第8回	成人期のアタッチメント	
	第9回	アタッチメントと児童虐待	
	第10回	アタッチメントと発達障がい	
	第11回	アタッチメントの視点からの養育者支援	
	第12回	アタッチメントの視点からの里親支援	
	第13回	アタッチメントの視点からのDV被害者・加害者支援	
	第14回	アタッチメントの視点からの司法への介入	
	第15回	まとめ	
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】本講義では、親子の関係性を支援する上で重要なアタッチメントを中心に学びます。まず最初に、アタッチメント理論を、その後それらが臨床分野でどのように援用されているのかについて学びます。</p> <p>【到達目標】アタッチメント理論と研究から得られた知見を活かした実践力を身につけることを目標とします。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部で学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである知識・主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度などを総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>		
テキスト	<p>テキスト名：赤ちゃんの発達とアタッチメント 乳幼児保育で大切にしたいこと ISBN：978-4-89464-247-8 出版社：ひとなる書房 著者名：遠藤利彦 価格(税抜)：1,300円</p> <p>「保育とアタッチメント」 ISBN978-4-89464-288-1 出版社：ひとなる書房 著者上野永子・岡村由紀子・松浦崇 価格：1300(税抜き)</p>		
参考文献	授業中に、適宜、紹介する。		

成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	予習課題15%：授業内に課すレポート：15%・学期末のレポート：70%で評価します。 授業内に課すレポートについては、講義内で口頭でコメントする。 期末レポートは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行います。
質問・相談の受付方法	講義終了後もしくは、オフィスアワー
履修条件	特に、設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生 <input type="checkbox"/> 可 聴講生 <input type="checkbox"/> 可
メッセージ	臨床現場で養育者支援に携わってきた経験も踏まえて、アタッチメント理論と研究がいかに臨床現場に役立つのかについてお伝えできればと思います。また、自分の考えを、論理的に相手に伝えられる力をつけることを目指しましょう！
準備学習について	予習を前提として、講義を進めます。授業終了後に、次回の予習内容を指示するので、授業ごとに1時間以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨んでください。

学校法人静岡精華学園 役員名簿

理事 9 人

監事 2 人

(令和 5 年 4 月 1 日現在)

役職名	氏名	摘 要
理事長	杉原桂子	平成 23 年 3 月理事就任 令和 3 年 3 月理事長就任
常務理事	山城厚生	令和 3 年 5 月理事就任 令和 3 年 5 月常務理事就任
理事	増田樹郎	令和 3 年 5 月理事就任 令和 4 年 4 月静岡福祉大学学長就任
理事	山田隆司	令和 2 年 4 月理事就任 令和 2 年 4 月静岡大成中学校・高等学校校長就任
理事	熊谷隆弘	令和 4 年 4 月理事就任 令和 4 年 4 月静岡精華幼稚園園長就任
理事	押見哲郎	平成 25 年 5 月理事就任 学外者
理事	増田康行	平成 23 年 12 月理事就任 学外者
理事	太田晴康	平成 26 年 4 月理事就任
理事	渡会 進	令和 4 年 4 月理事就任
監事	鈴木淑乃	令和元年 12 月監事就任
監事	森田さえ子	令和 3 年 5 月監事就任